

第6部 平成 29 年度の環境に関する取組みについて 豊岡市環境審議会の意見 (今後の取組みに向けて)

■環境審議会の意見

本報告書第2部から第5部までの内容に対し、第2次環境基本計画の「目標とする姿」の体系に合わせ、環境審議会からの意見や感想をまとめています。

(1) 「目標とする姿」ごとの取組みについて

目標像①手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます

山にとって、針葉樹と広葉樹のバランスを保つことや針葉樹を間伐し用材になるようしっかり手入れを行うことは大切です。きれいに間伐を行い、根はりのいい山になれば減災にも寄与します。防災の切り口から、森林環境の保全の必要性を広く周知することが必要です。

間伐材の利用は身近な森林環境の保全につながり、市域内からお金が流出しないなど、「環境と経済の共鳴」に寄与します。2016年12月に生野にバイオマス発電所(朝来市)ができ、翌年度より豊岡産の木材提供が始まったことにより、間伐材等の利用方法の幅が広がりました。住宅用・事業所用ペレットストーブ、薪ストーブの普及とともに、発電所に林材を出すことも含めた、再生可能エネルギーとしてのさらなる活用と健全な森づくりを期待します。

民間林に関しては、相続された林地の境界が所有者にも分からないなど、管理のできない状態が深刻化しています。また、人の手が入っていない希少な天然林が残っていますが、シカの食害で稚樹が育たず将来が心配です。山を適切に管理できるような対策が必要です。

目標像②里山が様々に利用され、関わる人が増えています

神鍋高原に野外体験ができる民間施設ができるなど、里山を利用して自然を知ろうという好ましい動向が見られます。食べられる山菜の知識を持つ市民を増やすため、市民講座を行い、座学とセットで里山に入るなどの取組みの検討を望みます。

有害獣の被害は田畑が目立ちますが、山の被害も大きいです。新植した苗木をシカが食べるなど、なかなか森が育ちません。引き続き有害獣対策に努め、農作物だけでなく、奥山も含めた山の生態系を守っていく視点が必要です。また、駆除された有害獣の肉や皮の活用が進んでいません。駆除するだけでなく、有効に活用していくことを望みます。

目標像③使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています

学校給食が毎日(5日/週)米飯(コウノトリ育むお米)になっていますが、使われているのは減農薬米です。給食のご飯に無農薬のお米を使用している市町村の例もあることから、子どもたちのためにも、無農薬米の使用に向けての動きを期待します。

学校給食への地元食材の利用については、政府推奨の30%を目標とするのではなく、豊岡市独自のより高い目標を設定することを提案します。

また、使われていない農地の実態を把握する方法の検討を求めます。

目標像④あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます

円山川の蓼川堰(日高地域)には、日本一ともいえる魚道があり、国交省によるモニタリング調査でも、蓼川堰の環境については高く評価されています。他の市内各地においても、子どもたちが楽しく遊べる川の環境を守るためにはより一層の努力が必要です。近づきにくい、利用しにくい環境を改善し、市民の水辺再生の機運を高める取組みを期待します。

目標像⑤コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています

コウノトリの野外生息数が増えています。全国のコウノトリは増えていますが、豊岡での野外コウノトリの数はほぼ飽和状態です。コウノトリも住める環境は、餌となる生き物も育まれる環境であり、豊かな生態系が構成されています。豊かな生態系を保全している豊岡の取組みについて、ほかの地域にも積極的に示す動きを望みます。

目標像⑥様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています

高齢化に伴い、地域の民俗芸能などの指導者がいなくなっています。地域の祭りや行事を未来につなげる指導者の育成が喫緊の課題です。また、小・中学生などの子どもが地域の伝統文化を学び身に着ける機会が昔と比べて減っています。子どもが地域の伝統行事に触れる機会の提供と、指導者の確保を望みます。

目標像⑦子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています

子どもたちが豊岡に自信をもつには、豊岡の自然の魅力を伝えられる講師が必要です。地域の前線で活動する人材の活用を行うとともに、豊岡ふるさと学習ガイドブックの有効な利用と講師の養成を望みます。

目標像⑧市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減っています

市民一人当たりのごみ計画収集量は減少傾向にあります。新しいごみの分類で、1辺20cm以上の缶が不燃ごみとして、大きな可燃ごみが粗大ごみ(従来の不燃ごみ)として回収されるようになったため、不燃ごみは微増傾向にあります。

また、問題になっている海の中のマイクロプラスチック(5mm以下のプラスチック)についても、二次マイクロプラスチック(※)はごみとして回収し焼却処分することで減らすことができます。適切なごみの回収・処理が行われるよう、プラスチックはポイ捨ての禁止、ごみの分別の周知をさらに行うことが必要です。

(※)プラスチック製品が劣化して小さくバラバラになったもの

目標像⑨市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています

2019年、電力固定価格買取制度(FIT)の期限が切れる設備がでてきます。考えられる影響を整理し、対応を検討することが必要です。

また、「楽しみながら市民が参加できる」という視点による、エコポイントに代わる新制度の開設を期待します。

目標像⑩環境をよくすることで経済が活性化され、交流も広がっています

環境経済認定事業の周知が十分にできていないと感じます。環境経済認定事業者の商品を市のホームページで宣伝するなどのインセンティブを付けるなど、認定するだけの制度とならないような対策を講じる必要があります。市と事業者双方にとってよりよい形の周知が行われることを期待します。

駆除された有害獣の肉を有効に活用するため、その肉を使用した料理を食べることができるジビエ祭りを催すなどの取組みを期待します。

(2) まとめ

今回は、第2次環境基本計画（平成29年度～38年度）で設定した目標像にもとづく最初の環境報告書です。第2次環境基本計画のもっとも大きな特徴は、第1次計画での成果をふまえて「山」に関する目標像を、いわゆる「奥山」と「里山」の2つに分け、それぞれについて「手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます」と「里山が様々に利用され、関わる人が増えています」というかたちで設定したことです。豊岡市の環境をよりよいものにするためには、市の面積の8割を占める森林の利用をつうじた保全が急務であると考えたからです。

第2次環境基本計画の推進1年目の評価は、10項目のうち3項目（目標像②④⑧）が「もっとがんばろう」でした。

奥山・里山の健全な管理については、除間伐で森林の質を高めること、獣被害の対策を十分に山に入る人・機会を増やすことが求められています。川・海岸の環境では、不法投棄や漂着物による汚染が課題として目立ちます。ごみの適切な処理についての理解と清掃活動への参加をいっそう促す必要があると思います。

第2次環境基本計画に基づいた1年目の評価で見えた課題を解決・改善するためには、「市」だけではなく「市民」「事業者」の理解と協力が不可欠です。さらに、2017年度から全市で立ち上がった地域コミュニティとの協働も欠かせません。

環境審議会は、環境基本計画の取組み主体である三者と新たな主体である地域コミュニティが目標像の実現に向かって進めるよう、それらの結節点となって取組みを支えていきたいと考えています。

平成31年3月

豊岡市環境審議会	会 長	山室 敦嗣	
	副会長	雀部 真理	
	委 員	内海 京子・太田垣秀典・岡崎 典子	
		日下部昌男・毛戸 勝・佐伯 雅代	
		島崎 邦雄・菅村 定昌・土川 忠浩	
寺田 正文・友田 達也・中村 肇			
	橋本 道江		

【お願い】

豊岡市環境報告書は、毎年公表するものです。

次年度以降より充実した報告書になるよう、皆様のご意見・ご感想や、ご提案・取組み事例の情報などをお寄せください。

豊岡市コウノトリ共生部コウノトリ共生課

住 所：〒668 - 8666 豊岡市中央町2番4号

電 話 番 号：21-9017（直）

F A X 番 号：24-7801

E - m a i l：kounotorikyousei@city.toyooka.lg.jp

H P 検 索：